

●今日の声かけ いきいき未来●

# 愛育

NO. 35  
2012

発行／2012年3月30日  
編集発行／社会福祉法人  
恩賜財団母子愛育会愛育推進部  
〒106-8580



東京都港区南麻布 5-6-8  
TEL 03-3473-8335  
FAX 03-3473-8454  
URL <http://www.boshiaiikukai.jp/>  
Email [suishin@boshiaiikukai.jp](mailto:suishin@boshiaiikukai.jp)



①



②



③



④



⑤



⑥

## 郡上市高鷲愛育班

① ② 乳幼児にとって遊びの大切さや技術を学ぶよい機会になりました。子どもたちの笑顔がとても印象的です。

## 香川県母子愛育連合会

③ ④ 子育て中の方へのエールになるような講演会を企画したいとの熱い思いから事業計画が始まりました。

## 岡山市

⑤ ⑥ 住民組織活動に携わる育成者も、技術向上のために研修会を開催しました。

# 平成 23 年度愛育班組織強化事業

平成 22 年度から、愛育班の組織強化と活動の活性化を図るために新設した事業です。主な事業の内容は、子育て支援を入口として、その地域の実情にあわせた健康づくりに寄与する研修会等を行い、事業を通じて愛育班活動の活性化と組織強化を図る目的で行う「子育て支援研修会等」と、愛育班活動の継続と活性化、組織強化を図るために、各県や保健所管内、市等に出向いて実践に即した研修を行い、開催地の都道府県・市町村と恩賜財団母子愛育会が共催で行う「母子保健地区組織育成者研修会」の開催です。

実施主体	岐阜県郡上市高鷲愛育班	香川県母子愛育連合会	岡山市
実施日	平成 23 年 7 月 7 日 (木)	平成 23 年 10 月 21 日 (金)	平成 23 年 6 月 24 日 (金) 平成 23 年 12 月 26 日 (月)
内容	「親子で遊ぼう会」 ～親子でできるレクリエーション～ 講師 岐阜県レクリエーション協会 副会長 渡邊 丈展	講演「絆～どんなあなたも大好き～」 講師 アレフインターナショナル コーポレーション 臨床心理士 渡辺 照子	講義「地域組織活動から地域全体の健康づくりへ」「地域組織活動のアセスメントと評価」演習「担当地域の地域組織活動のアセスメントと実践計画」 講師 母子愛育会 斉藤 進 演習「実践による結果のまとめ、評価」講義「これからの地域組織活動の発展と支援のあり方について」 講師 母子愛育会 小山 修

## 愛育班組織強化事業を終えて

岐阜県郡上市高鷲愛育会

会長 裕 有里

高鷲愛育会は、岐阜県の山あい、長良川源流部の郡上市高鷲町の愛育班です。子どもたちは夏には水遊び、冬には雪遊びと自然を身近に感じられる地域ではありますが、隣近所に子どもが少なく、特に未就園の子は同年代の子と遊ぶ機会がなかなかないという大変さもあります。今回愛育班組織強化事業のお話をいただき、平成 23 年 7 月 7 日、「親子で遊ぼう会」と題して子育て支援研修会を行いました。内容を決める際には、「親子で一緒にからだを使った遊びを学びたい」という意見が多くありました。毎年いくつかの行事を行っています。いつもとは違った形でみんなが参加したくなるような会にしたいと考えました。

当日は、岐阜県レクリエーション協会の渡邊丈展先生を講師としてお招きしました。子どもたちから見ればおじいちゃんぐらゐの年の方でしたが、とても面白くて親しみやすい先生で、みんなすぐに笑顔になっていました。

親子遊びでは、定番の歌を歌いながら手遊びで徐々に体を動かした動きになっていきました。曲に合わせて歩いたり走ったり踊ったり。親子で飛んだり跳ねたり抱っこしたり寝転んだり。終盤には遊戯室のスペースをいっぱいにつかって、ちょっとした障害物競争！親の方が真剣になったり、子どもたちの中には何回も挑戦する姿もみられました。時間がたつにつれ、お母さんにくっついて離れなかった子ども輪の中に入り、子ども同士親同士仲良く楽しめました。

終了後にお茶を飲みながら研修会の感想を話し合いました。「子どもと一緒に汗をかいて楽しく笑って大満足」「いつもと違うふれあいが出てよかった」という意見がありました。今後の会の行事や家庭での親子遊びに生かそうです。また、愛育会のよいところについて話し合っ

たところ、「いろんな人と知り合え、子どもも楽しく遊べるので、親子で毎月楽しみにしている」「親も子ども友だちができ、ストレスや育児不安が解消できる」「高鷲中の人と交流できる」という意見が出されました。母子愛育会の山田部長からは、子育て親子の絆が安心子育てのまちづくりに役立っていると褒めのことばをいただきました。うれしく思いました。

高鷲町愛育会も今年で 30 年を迎えました。今後は、伝統や先輩たちが残してきたものを大切にしつつ、新しいものもたくさん取り入れ、いろいろな行事にも挑戦していきたいです。そして自分たちで次に繋がる活動をしていきたいと思っています。

## 愛育会活動を通じた地域づくり

岐阜県郡上市健康福祉部健康課

保健師 小澤 藍

高鷲愛育会は昭和 56 年に誕生し、乳幼児を持つ親同士が誘い合い、交流、研修などの活動を通じて、健康増進や子育て支援を実践しています。現会員の親が子育て現役世代だったころから途切れることなく続いており、会のおかげで「地域ぐるみの子育て」が根付いてきました。

今回、愛育班組織強化事業（子育て支援研修会）を活用した「親子で遊ぼう会」を開催し、岐阜県レクリエーション協会の専門講師による研修を受けました。これは、からだを動かして楽しむだけでなく、親子のこころ・からだづくりに関して専門的な知識に裏づけされたレクリエーションを体験することにより、乳幼児や親にとっての遊びの大切さや技術を学ぶことができ、刺激的な研修会になったと思います。また、愛育会活動を振り返る話し合いをしたことで、改めて自分たちの活動の意味合いを確認し、継続していく力になったと感じています。

研修内容の検討、チラシ作成・配布、打ち合わせや会場準備、後片付けまで会員同士が協力し、当日は大成功

でした。  
この愛育会の力が次世代へと引き継がれることを願い、愛育会による支えあいの地域づくりを全力で応援していきたいと思えます。

## 「子育て支援研修会」を終えて

香川県母子愛育連合会

書記 中北 麻子

さる平成23年10月21日、香川県社会福祉総合センターにおいて、愛育班員並びに各市町の育成者など二百八十名の方に参集いただいて「子育て支援研修会」を開催いたしました。

日頃地域で訪問活動や子育て支援を行っている中で、育児不安を感じているお母さん達へのエールとなるような研修会にしたい、という熱い思いから事業計画が始まりました。

そして、ケアストレスカウンセラーとして多くの方のカウンセリングを行い、平成二十二年度児童福祉文化財に推薦された「絆〜ママへのラブソング〜」の作詞者でもある渡辺照子先生をお迎えし講演会を開催する運びとなりました。子育て中のお母さん方には是非聞いてほしいと、地区毎の役員さんが多くの方に声かけをした結果、大勢の方に来場して頂くことができました。

「絆〜どんなあなたも大好き〜」という演題で講演会が始まりました。場内には「絆〜ママへのラブソング〜」の歌が静かに流れ、子供たちの映像を見ていると、優

しいママになろう、そう思っただけに子育てをしていたあの頃を思い出しました。子どもの成長と共に親子の関係も変わってゆく、しかし子どもと向き合い成長を信じて待つことの大切さを学びました。

子育てが難しい時代と言われ、悲しいニュースも後を絶ちません。しかし今こそ家族の「絆」を大切に、地域で愛育会の「こころ」を受け継ぎ広めてゆきたいと思えました。香川県母子愛育連合会も今年度で創立四十周年を迎え、また次の十年に向かってスタートしました。これからはさらに組織を強化し、時代の変化にも対応していけるように、会員相互のコミュニケーションを図り、楽しく活動を続けていきたいと思います。

## 愛育班組織強化事業・

### 子育て支援研修会を終えて

香川県健康福祉部子育て支援課

保健師 佐野 昌美

香川県母子愛育連合会は今年創立40周年を迎え、この記念事業の一環として、子育て支援研修会を開催しました。

香川県では現在、県内17市町のうち14市町に母子愛育会組織があり、連合会はその代表の方たちの集まりで、調査研究やリーダー研修会などを実施しています。連合会の通常の活動に加え、40周年記念事業が加わり、役員さんたちの負担は大変なものだったろうと思います。

研修会開催までの間、講演内容や会場の検討と選定、当日の会場設営、進行、

会員への周知など話し合いを重ねるなか、意見がぶつかったこともありましたが、産みの苦しみを経て、全員で取組んだ研修会は、超満員で、涙なしには聴けない感動的な講演も相まって、大成功に終わりました。研修会終了後は、運営に携わった会員さん全員の達成感が、晴れ晴れとした笑顔に溢れ、微力ながら関わらせていただいた私もしばし感動させてもらいました。

この研修会は研修会自体の意義もさることながら、共に目標に向かって作り上げていくことに大きな意義があったと感じました。まさに講演会のテーマでもあった「絆」を実感した事業だったと言えます。市町の愛育会では、様々な事情から活動休止になったところもあり、連合会もまた様々な課題を抱えています。共に作る、つながる実感が得られる今後の活動のあり方を模索しているところです。

## 「母子保健地区組織育成者

### 研修会」を終えて

岡山市保健所健康づくり課

保健師 坂上 智美

岡山市では、愛育委員協議会が設立され45年以上経過している。保健師等組織に関わる者は、愛育委員会への支援とともに、地域の様々な組織活動を支援するようにもなっており、保健活動の中でも組織育成が占める割合は高くなっている。

しかし、組織活動を支援する保健師・栄養士等の育成者は若年化しており、住

民組織活動に関わることはできているが、なぜ行政が組織に関わるのか十分理解し、支援できているかは課題でもあった。

そこで、本研修を活用し、「保健師等が、地区組織育成の必要性を明確にし、支援・協働に関する技術を向上させることで健康なまちづくりを支える地区組織の充実を図る」ことを目的に研修会を開催した。

研修は、6月と12月の2回シリーズとし、研修前には自らの活動の振り返りを促すために、事前学習として活動計画・評価をレポートにした。研修当日にはそれを持ち寄りグループワークを展開したが、研修参加者自身語ることで、活動の振り返りが具体的にでき、気づきも明確になった。特に、地区組織があるのが当たり前となっており、組織、行政の役割や、目指す方向を共有していくことが十分ではなかったところがあった。まずは、組織と地域を語ることを意識していったことが、研修参加者の共通する点であった。研修に参加できた育成者は一部であったが、研修参加者を通じて各保健センターで組織育成のあり方を話し合うきっかけになったことも、本研修の成果の一つでもある。

研修での気づきを、各組織活動にフィードバックしながら研修も進めてきたが、研修期間だけで変化させていくことは困難である。今後も継続して今回の気づきを実践し、評価していくことが必要である。また、これまで培ってきた組織育成のノウハウを継承していくためにも、本市にあった組織育成研修のあり方を検討していきたい。

島根県の沖合五十キロのところに肩を寄せ合うように浮かぶ隠岐諸島。四つの島からなるその中で最も小さな知夫里島は一島一村の小さな自治体です。そこで活動している知夫村愛育班をご紹介します。

## 知夫村愛育班の活動

知夫村愛育班班長 平木 弘美

松江市七類港から船で二時間余り知夫来居港につきます。

面積十三・〇一キロ平方メートル、平成二十四年三月一日現在の人口六一二人で、農業、畜産、漁業を中心とした風光明媚な自然に恵まれた村です。

昭和五十八年に五名の班員で結成され、「声かけ」を中心に活動しながら、現在は一四名（仁夫地区十名、薄毛地区四名）になり、今年で三十年目を迎えました。

昭和五十九年から愛育班便りを発行しています。各戸をまわり、愛育班便りを配布しながら、いろいろな話を聞き、時には悩み事の相談も受けます。

平成十二年には、「第三十二回愛育班員全国大会」で班員の井田真理子さんが会長表彰を受賞し、天皇后両陛下に皇居にて拝謁を賜りました。

また、愛育班の一番の活動がゴキブリ団子作りで、毎年大愛好評をいただいています。平成二年から毎年一回配布し、今年で二十二回目です。班員が手作りし、各戸（空き家も含む）に配ります。また、地区の集会所や御堂にも配るので、地区内には、ゴキブリの姿をみることはありません。

保健師さんと共に基本健診や健康相談の手伝いとして、皆さんの日常生活の把握に努めています。

毎年二月には知夫村唯一の高齢者施設である、招福苑を慰問して入居者の部屋を掃除したり、知夫民謡を歌ったり、踊ったりと交流を図っています。

両地区とも年一〜二回、三世代交流会を行い、昔からのお菓子作りや遊びなどで楽しい一日を過ごします。そして、昨年は八十歳以上の方に手作り弁当を配布しました。班員のアイディアにより、地区内でとれた野菜や海藻を

使ったもので大変喜ばれました。

班員の研修として講演会を開催したり、他地区愛育班と交流会を行っています。

座談会に於いて一番要望の高かった「みんなで気楽に立ち寄れる所がほしい」との意見に、愛育班役員や、村民の皆さんと共に平成二十二年十一月に地区のサロン「いっぷく亭」を立ち上げました。月に一回程度の喫茶、手作りパンと、コーヒーに協力しています。住民の高齢者の方達がたくさんこられ、話に花がさきます。

知夫村には七地区ありますが、愛育班が結成されているのは、仁夫地区と薄毛地区しかありません。他の地区にも普及させるにはどうしたら良いか等、まだまだ課題が残っているのが現状です。又知夫村も高齢者の割合が、年々増え、地域の支援が益々必要になってきています。この村で生まれ育って来た人達は島外に出ることを極端に嫌います。健康で住みよい村作りをめざし「声かけ」「見守り」を、活動の柱として頑張っていきたいと思えます。



高齢者への食のたより



あかはげ山からみた島前湾

埼玉県杉戸町母子愛育会で取り組む、

マタニティキーホルダーへの

メッセージ封入活動

〜マタニティキーホルダーに思いを込めて〜

埼玉県杉戸町母子愛育会では、「こんにちは！お身体を大切に」と書きのメッセージを添えたマタニティキーホルダーをプレゼントする活動をしています。

愛育班活動が結ぶ地域の絆を取材しました。

皆様が既にご存知のとおり、妊婦さんにやさしい環境づくり推進のために、マタニティマークが選定されました。そして、妊婦さんが公共交通機関等を利用する際に身に付け、周囲もより配慮を示しやすくなるものとして、平成18年度よりマタニティキーホルダーの導入が自治体等で始まりました。

杉戸町では、マタニティキーホルダーの導入当初、愛育班員が妊婦さんを訪問して、手渡していました。現在は保健センターに妊娠を届出した際に杉戸町母子愛育会からのプレゼントとし

て、母子健康手帳等と共に手渡されています。その際、保健師から杉戸町母子愛育会について活動紹介も行われ、妊娠中・出産後に愛育班員が訪問しても良いか確認をとります。

「こんにちは！お身体大切に」温かいメッセージが込められた、次世代へつなげるプレゼントです。

封入作業は、毎月一度開催する分班長会議の時に行っています。慣れた手つきで、色を塗り、「こんにちは！お身体を大切に」等とメッセージを書き込み、切り抜いて行きます。袋の中心部分にメッセージカードが入るよう気をつけて作業をします。

「妊婦さんを思い浮かべて、作業しています。そうすると、私たちが、温かい気持ちになりますからね」と。

一年間に誕生する約300人の赤ちゃんのために、ひとつひとつ思いが込められたものなのだ、大変印象的でした。

マタニティキーホルダーへのメッセージ封入活動の他にも、杉戸町母子愛育会オリジナルのお誕生日記念カードのプレゼントも行っています。

毎日保健センターで開催される健康

相談に、お誕生日のお子さん、身長や体重を計測に来ると、お誕生日記念カードに結果を記入しプレゼントしています。未就園児にとっては、身長や体重を計測する機会があまり無いので、地域のお母さん方に大変好評を頂いているそうです。

お誕生日記念カードのプレゼントも愛育班員から生れたアイデアとのことです。



メッセージが添えられたマタニティキーホルダー



メッセージ封入作業の様子



お誕生日記念カード

# 平成23年度健やか親子21全国大会

平成23年度「健やか親子21全国大会」が11月9日から、福井県福井市のA OSSにて開催されました。同大会では長年にわたり母子保健事業に貢献された方々の表彰が行われ、以下の愛育班活動に関係する方が受賞されました。おめでとうございます。

## 厚生労働大臣表彰

「個人の部」  
山梨県 遠藤 一未 (愛育班員)

## 「団体の部」

埼玉県 飯能市母子愛育会  
兵庫県 洲本市外町地区愛育班

## 母子愛育会会長表彰

## 「個人の部」

埼玉県 藤井 美子 (愛育班員)  
埼玉県 齋藤 勢津世 (愛育班員)  
山梨県 雨宮 ちよ子 (愛育班員)  
山梨県 石原 準子 (育成者)  
兵庫県 山下 好子 (育成者)  
岡山県 上田 満子 (愛育班員)  
香川県 大野 美恵子 (愛育班員)  
大分県 糸長 美紗子 (愛育班員)

## 「団体の部」

埼玉県 加須市母子愛育連合会大利根支部  
香川県 丸亀市城西母子愛育班

## 愛育班活動 基本のおさらい 声かけメモについて

受持ちの家庭を訪問した際や商店街で声かけをした際に、見聞きした事や感じた事を、声かけメモに残します。どんな細かな事でも書き留めておくことが、より地域の状況を知る上で大切になってきます。

「声かけはしているが、声かけメモにするのは大変だ」「声かけメモがびつしり埋めるような家庭訪問はしていない」等、この様な声が聞かれますが、もう少し気楽に考えても良いのではないのでしょうか？

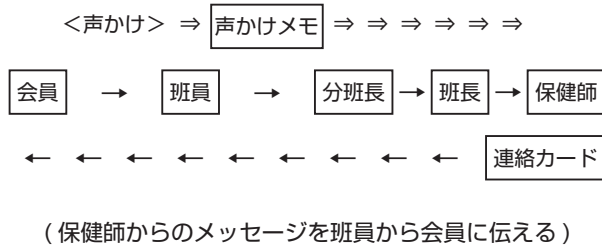
普段の活動から生れる何気ない話題も、個人の話題に終わらせず、意識的に声かけメモに残して行くと、地域全体の健康づくりを進めるための貴重な情報源となります。一つひとつ情報を拾っていくことが、やがて大きな活動へとつながって行きます。声かけメモのフォーマット全てに、びつしり埋める事を目標とせず、まずは話をした内容や感じた事を、一行程度書いてみることから始めてください。

声かけで得られた情報は、部外者に見せたり渡したりしないことが活動する際の約束ごとになっています。声かけメモは、図1の様な流れになっています。地域の状況が「ひとつの

情報」となり保健師につなげる事ができるため、住民にとつての不利益を未然に防ぐことが出来ます。声かけメモを受け取った保健師からは、連絡カードにてメッセージが届きます。

また、健康に役立つ情報だけでなく、声かけで得られた微笑ましい光景や幸せそうな場面などを愛育班だよりで地域の方にお返しすることもできます。この様な事からも、愛育班活動は自主的な活動と言われています。声かけメモは、愛育班活動におけるツールです。ぜひ、今後の活動に活かしてみてください。

図1 声かけと声かけメモ・連絡カードの流れ



## 東日本大震災後と 母子愛育活動

福島県田村市保健福祉部  
渡部 育子

昨年3月11日の震災は生涯忘れられない出来事です。当時私は本庁保健課で勤務していましたが、今まで経験したことのない大きな揺れに職員が声をかけあつて駐車場に出ました。

立っていることも困難で、近くに止めてあった軽トラックにつかまって、職員同士震えていました。庁舎をみると蛍光灯がぶら下がり、ロッカーが倒れ、パソコンなどの機器類、机はめちゃめちゃでした。古い庁舎のため天井から砂が落ちていました。

その日は3月とはいえとても寒い日で特に地震の影響か雪が舞い始め、コートをとりに庁舎に戻ろうとすると、又大きな揺れが何度もあり、危険な状況でした。

駐車場に集まった職員は、上司の指示に従い、情報収集にあたりましたが通信網が機能せず情報の少ない中、職員同士が協力しながら市民への対応にあたり、震災後10カ月が過ぎた今日まで災害関連の活動が続いています。

私は田村市が合併する前の旧大越町に保健師として採用され、大越町母子愛育会と活動を共にしてきました。

私が勤務した頃はどこの町村にも母子愛育会があり、保健所を窓口にして役員会や研修会が実施されていました。

私も当然のように母子愛育会の育成者として、日々の活動の中に母子愛育会を位置づけ、合併前まで一緒に地域の健康について話し合い、相談してきました。

しかし、母子愛育会は県内でも縮小、廃止が相次ぎ、保健所の統廃合もあり、現在福島県では大越町母子愛育会のみが全世帯を会員として活動しています。

平成17年3月に5町村が合併し、大越町行政局で保健活動を継続していましたが、機構改革により大越町行政局には保健師が1名となりました。私は大越町に残り、母子愛育会には本庁保健師と二人で地区分担して分班長会議・役員会議に出席していました。

私が22年度に本庁に異動してからは、新しく大越行政局常駐の保健師が中心となり本庁保健師と共に母子愛育会活動を支援しています。

後輩保健師に母子愛育会活動の楽しさを伝え始めたところ、災害が発生し、本庁にいた私たちは放射能の不安をもつ母親に対して「母と子の放射線教室」を放射線医学研究所の協力のもと、5月に4会場で開催することにしました。

市民の関心が高い教室で、不安を抱える参加者は保護者のみならず、家族や関係者など大勢が集まりました。

市民の質問は、放射線について詳しい情報がなかった時期であったため、「洗

濯物を外に干してもよいか」「子供を外で遊ばせてよいか」「子供の食べ物はどう選べばよいか」「雨にあたってしまつたがどうすればよいか」などに対して、講師が丁寧に答えていました。参加者の感想では、「初めて詳しいことがわかった」「食材の洗い方や選び方がわかった」「風の強い日はマスクが必要」など講演終了後も参加者同士で話し合う姿が見られました。

大越町では愛育会の声かけ効果もあり、会場は椅子を追加するほど一杯になりました。組織の力は大きいものと改めて確認することができました。

私は、災害対策に追われ、毎月の分班長会議に十分な準備ができないまま出席していましたが、このような状況だからこそ、毎年実施していた「親子のふれあい広場」を開催したいと役員会では前向きな発言が出され、内容を縮小しましたが予定通り開催できました。

班長・分班長・班員が力を出し合い、外遊びはできませんでしたが、家族連れが参加し、遊びを通して地域とふれあいを楽しむことができました。

今回の災害では福島県は放射線被害が長期に続く不安を抱えてしまいました。これは未来を担う、妊婦・子供の健康不安でもあります。

だからこそ、母子愛育会の存在が大きな意味をもつと思います。

長く地域の中で母と子の健康を守る活動をしてきた会として、市民の声を一番聞ける立場にあるからです。

声かけを通して得られた不安や、悩みを毎月の会議に持ち寄り、会でできるこ

と、行政でできること、他の機関で相談できることなどを話し合い、市民に返していく活動の形態は今までと変わることなく続けることが大切です。

今こそ、地域が見える範囲を受け持つ班員の活動が期待されています。

寒さが続くこの時期に大越町母子愛育会では各分班活動として、学習会や料理講習などが行われています。参加する市民は放射能への関心が高く、私たちは求めに応じて資料を準備し、正しい知識を伝えながらも互いに知恵と工夫でこの困難を乗り越えようと話し合っています。この状況の中、母子愛育会は変わることなく活動ができることを本当に頼もしく思います。

今年こそ、子供たちが外で思い切り遊べる「親子のふれあい広場」が開催できることを心から願っています。



## ★ インフォメーション ★

### 第51回愛育班長研修会、第51回愛育班等組織育成者研修会開催のご案内

愛育班活動の基本に立ち返り、声かけ・見守り・話し合いなど日頃の実践活動についての交流会や子育て支援、健康づくり、生活の場での支え合いなどもう一度学ぶチャンスです。全国各地から参加いただいた研修生の交流も貴重な学びの機会になっています。日程は下記の通りです。研修会の詳細（研修項目等）は決定次第母子愛育会のホームページでお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしております。

	愛育班長研修会	愛育班等組織育成者研修会
実施期間	平成24年7月3日（火）～6日（金）	平成24年8月28日（火）～31日（金）
申込み締切日	平成24年5月28日（月）	平成24年7月23日（月）
対象者	単位愛育班の班長	愛育班の育成に携わる方
受講料	無料	無料
見学交通費	3,000～5,000円程度	10,000円程度

### 平成24年度健やか親子21全国大会開催のご案内

例年健やか親子21全国大会では、「健やか親子21」の推進を図るとともに、母子保健事業の推進に功績のあった個人や団体を表彰しております。また、大会の併設事業として母子愛育会では、母子保健関係者を対象とした母子保健関係者研究集会や、愛育班等組織支援担当者会議を開催しております。

平成24年度は、下記のとおり開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

日 程 平成24年10月31日（水）～11月2日（金）

会 場 ベイシア文化ホール（群馬県民会館）

群馬県前橋市日吉町1-10-1

### リーフレット「ご存知ですか？愛育班」無料配布について

愛育推進部では活動をわかりやすく紹介したリーフレットを配布しております。愛育班活動を紹介する際などにお役立てください。ある愛育班ではリーフレットの裏表紙に連絡先などを明記し、初めての訪問活動の際に利用していただいているそうです。引き続き送料も無料とさせていただきますのでお気軽にお申込みください。母子愛育会のホームページから専用のお申込み用紙をダウンロードしてお使いいただけます。



### 編集後記

35号では、埼玉県杉戸町母子愛育会で取り組まれている、マタニティキーホルダーに手書きのメッセージを添える活動についてお話を伺いました。とても細やかな作業の連続で、難しそうだなと思ってしまいましたが、何よりも手書きのメッセージは温かみがあり、良いものだと思えることができました。取材の数日後、最近文字を書くことに興味を持ち始めた長男から「まま いつもおいしいげはんありがとう」と誤字も含まれていましたが、手書きのメッセージを手渡されました。

メール等が普及し、手書きをして伝える事が減ってしまった昨今ですが、手書きのメッセージには、心が添えられるので、その分相手に思いが伝わるのだと感じました。（愛育推進部 H・N）